

平成23年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年3月4日

上場取引所 大

上場会社名 エイケン工業株式会社
 コード番号 7265 URL <http://www.eiken-kk.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 早馬 義光

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画管理室長 (氏名) 池田 文明

四半期報告書提出予定日 平成23年3月17日

TEL 0537-86-3105

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年10月期第1四半期の業績(平成22年11月1日～平成23年1月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年10月期第1四半期	1,091	△6.3	40	△23.0	43	△21.1	18	△45.5
22年10月期第1四半期	1,164	7.1	52	△13.1	55	△13.4	33	△3.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年10月期第1四半期	3.35	—
22年10月期第1四半期	5.05	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年10月期第1四半期	4,450	3,415	76.7	628.12
22年10月期	4,740	3,474	73.3	638.28

(参考) 自己資本 23年10月期第1四半期 3,415百万円 22年10月期 3,474百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年10月期	—	0.00	—	15.00	15.00
23年10月期	—	—	—	—	—
23年10月期 (予想)	—	0.00	—	12.50	12.50

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年10月期の業績予想(平成22年11月1日～平成23年10月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	2,266	△4.6	83	△32.8	82	△36.1	47	△45.3	8.68
通期	4,504	△5.3	139	△32.3	140	△35.0	80	△70.1	14.70

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3 2.「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年10月期1Q 7,200,000株 22年10月期 7,200,000株

② 期末自己株式数 23年10月期1Q 1,762,185株 22年10月期 1,757,185株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年10月期1Q 5,438,282株 22年10月期1Q 6,606,511株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、アジアを中心とした新興国の需要拡大を背景に企業業績は、緩やかな回復基調にあるものの、円高による輸出企業の収益の圧迫及び雇用環境に改善がみられないことから、企業の設備投資及び個人消費は依然として厳しく、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

こうした状況のなかで、当社が属しております市販メーカーにおいては、カーディーラーでの交換頻度が増えていること及びガソリンスタンドのセルフ化の影響を受けて厳しい状況になっているなかで、鋼材等の原材料価格の高止まりによる製造原価の上昇及び海外からの安価な商品の流入等、当社を取り巻く経営環境は一段と厳しさを増しました。

このような環境の中にあつて、当社は、売上高は10億91百万円（前年同四半期比6.3%減）、販売費及び一般管理費が13百万円減少したものの、売上高が減少したことが要因となり、営業利益は40百万円（前年同四半期比23.0%減）、経常利益は43百万円（前年同四半期比21.1%減）となりました。経常利益が減少したこと及び資産除却債務会計基準の適用に伴う影響額を10百万円計上したことが要因となり、四半期純利益は18百万円（前年同四半期比45.5%減）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次の通りであります。

(フィルター部門)

売上高に関しては、国内売上はガソリンスタンド向けが減少し、輸出売上は東南アジア向けが減少しました。営業利益に関しては、販売費及び一般管理費が減少したものの、鋼材等の原材料価格の高止まりにより製造原価が上昇しました。

その結果、売上高は10億30百万円、営業利益は92百万円となりました。

(燃焼機器部門)

売上高に関しては、熱交換器及びバーナ部品の売上高が増加しました。営業利益に関しては、厨房機器のOEM販売を中止し、部品販売に変更したことにより、原材料費及び人件費の削減が出来ました。

その結果、売上高は60百万円、営業利益は6百万円となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、27億30百万円（前事業年度末比10.8%減）となりました。主な要因は、現金及び預金が2億39百万円、受取手形及び売掛金が88百万円減少したことによるものです。

固定資産は、17億19百万円（前事業年度末比2.5%増）となりました。主な要因は、投資その他の資産が36百万円増加したことによるものです。

この結果、総資産は、44億50百万円（前事業年度末比6.1%減）となりました。

(負債)

流動負債は、8億86百万円（前事業年度末比20.6%減）となりました。主な要因は、短期借入金が1億40百万円及び未払法人税等が72百万円減少したことによるものです。

固定負債は、1億47百万円（前事業年度末比1.1%減）となりました。主な要因は、資産除去債務が10百万円増加したものの、役員退職慰労引当金が23百万円減少したことによるものです。

この結果、負債合計は、10億34百万円（前事業年度末比18.3%減）となりました。

(純資産)

純資産合計は、34億15百万円（前事業年度末比1.7%減）となりました。主な要因は、利益剰余金が63百万円減少したことによるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税引前四半期純利益が35百万円となったものの、短期借入金の純増減額が1億40百万円の減少となったことにより、3億81百万円（前事業年度末比98百万円減）となりました。

当第1四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、86百万円の収入（前年同四半期比54百万円減）となりました。

主な要因は、法人税等の支払額が98百万円となったものの、減価償却費が52百万円となったこと、賞与引当金の増加額が48百万円となったこと及び売上債権の減少額が86百万円となったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、33百万円の収入（前年同四半期比27百万円増）となりました。

主な要因は、定期預金の預入による支出が61百万円となったこと、有形固定資産の取得による支出が55百万円となったこと及び投資有価証券の取得による支出が50百万円となったものの、定期預金の払戻による収入が2億2百万円となったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億19百万円の支出（前年同四半期比1億52百万円増）となりました。

主な要因は、短期借入金の純増減額が1億40百万円の減少となったこと及び配当金の支払額が76百万円となったことによるものであります。

（3）業績予想に関する定性的情報

該当事項はありません。

2. その他の情報

（1）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 簡便な会計処理

棚卸資産の評価方法

当第1四半期会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

② 特有の会計処理

該当事項はありません。

（2）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

「資産除去債務に関する会計基準等の適用」

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益に与える影響はありませんが、税引前四半期純利益は10,173千円減少しております。

3 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成23年1月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	969,425	1,209,178
受取手形及び売掛金	1,092,592	1,181,141
商品及び製品	414,037	424,419
仕掛品	45,377	37,723
原材料及び貯蔵品	147,631	145,645
その他	62,941	65,890
貸倒引当金	△1,097	△1,197
流動資産合計	2,730,909	3,062,801
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	494,005	503,973
その他(純額)	936,978	920,929
有形固定資産合計	1,430,984	1,424,902
無形固定資産	14,653	14,833
投資その他の資産		
その他	274,698	238,251
貸倒引当金	△710	△700
投資その他の資産合計	273,988	237,551
固定資産合計	1,719,626	1,677,287
資産合計	4,450,535	4,740,088
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	264,832	312,448
短期借入金	360,000	500,000
未払法人税等	28,800	101,132
賞与引当金	72,433	24,144
その他	160,876	178,663
流動負債合計	886,943	1,116,390
固定負債		
退職給付引当金	102,148	101,291
役員退職慰労引当金	4,386	28,142
資産除去債務	10,173	—
その他	31,262	20,207
固定負債合計	147,970	149,641
負債合計	1,034,914	1,266,031

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成23年1月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	601,800	601,800
資本剰余金	389,764	389,764
利益剰余金	3,234,858	3,298,277
自己株式	△814,630	△812,630
株主資本合計	3,411,792	3,477,212
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,828	△3,154
評価・換算差額等合計	3,828	△3,154
純資産合計	3,415,621	3,474,057
負債純資産合計	4,450,535	4,740,088

(2) 【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年1月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年11月1日 至平成23年1月31日)
売上高	1,164,109	1,091,025
売上原価	960,192	912,131
売上総利益	203,916	178,893
販売費及び一般管理費	151,807	138,763
営業利益	52,109	40,130
営業外収益		
受取利息	748	735
受取配当金	1,229	1,429
投資有価証券評価益	—	1,204
受取賃貸料	2,123	1,548
その他	956	352
営業外収益合計	5,058	5,269
営業外費用		
支払利息	548	711
売上割引	1,214	1,052
その他	76	6
営業外費用合計	1,839	1,770
経常利益	55,328	43,629
特別利益		
貸倒引当金戻入額	111	100
保険解約返戻金	2,980	327
受取保険金	—	2,134
特別利益合計	3,091	2,562
特別損失		
固定資産除却損	1,013	34
貸倒引当金繰入額	—	10
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	10,173
特別損失合計	1,013	10,218
税引前四半期純利益	57,406	35,973
法人税、住民税及び事業税	32,653	27,516
法人税等調整額	△8,662	△9,764
法人税等合計	23,990	17,751
四半期純利益	33,415	18,222

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年1月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成22年11月1日 至平成23年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	57,406	35,973
減価償却費	41,384	52,469
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△1,592	856
賞与引当金の増減額 (△は減少)	46,956	48,289
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△111	△90
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△16,672	△23,756
受取利息及び受取配当金	△1,977	△2,165
支払利息	548	711
固定資産除却損	1,013	34
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	10,173
投資有価証券評価損益 (△は益)	△368	△1,204
受取保険金	—	△2,134
保険解約損益 (△は益)	△2,980	△327
売上債権の増減額 (△は増加)	59,809	86,037
たな卸資産の増減額 (△は増加)	4,307	741
仕入債務の増減額 (△は減少)	△7,214	△47,616
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△17,018	14,817
その他	△21,270	8,260
小計	142,220	181,072
利息及び配当金の受取額	1,667	2,520
利息の支払額	△545	△418
法人税等の支払額	△489	△98,382
保険金の受取額	—	2,134
災害損失の支払額	△1,250	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	141,602	86,926
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△161,000	△61,000
定期預金の払戻による収入	272,000	202,000
有形固定資産の取得による支出	△102,994	△55,746
無形固定資産の取得による支出	△1,418	△2,025
投資有価証券の取得による支出	—	△50,000
その他の支出	△79	△288
その他の収入	99	1,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,606	33,939

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成21年11月1日 至 平成22年1月31日)	当第1四半期累計期間 (自 平成22年11月1日 至 平成23年1月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△140,000
自己株式の取得による支出	△4,083	△2,006
リース債務の返済による支出	△867	△1,192
配当金の支払額	△62,491	△76,482
財務活動によるキャッシュ・フロー	△67,441	△219,681
現金及び現金同等物に係る換算差額		
	△84	62
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	80,683	△98,753
現金及び現金同等物の期首残高	181,976	480,178
現金及び現金同等物の四半期末残高	262,659	381,425

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第1四半期累計期間(自 平成22年11月1日 至 平成23年1月31日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期累計期間(自 平成22年11月1日 至 平成23年1月31日)

該当事項はありません。

以 上